



子どもの成長を 見守りたい

日々成長していく子どもたち。気がかりは
まだまだ多いけれど、少しずつ自立する姿を
見守ってあげたいですね。そんなパパママ
を応援する本をご紹介します。

『くまのこポーロ』

前田まゆみ 主婦の友社

約2年で自分でエサをとってひとり立ちする
ツキノワグマの生態を元に作られた絵本。
やさしい挿絵の中にお母さんグマの愛情と子グマ
の自立を見送る強さが描かれています。



『手から、手へ』

池井昌樹/詩 植田正治/写真 集英社

「どんなにやさしいちははもおまえたちは
一緒にいけないどこかへやがてはかえるのだから」
いつかは親の元から羽ばたく子どもたちをいつまで
も見守っている親心が心に響く詩と写真の本です。



この本は…? →

『かあちゃん取扱説明書』

いとうみく/作 佐藤真紀子/絵 童心社

かあちゃんの取り扱い(!)をマスターすれば自分の思い通り
になるかも!とお母さんの取扱説明書を作る男の子の物語。
子どもたちに人気のある一冊で、小金井小の子どもたちは
お母さんが大好きで、たくましい子なんだなあ、と感ずます。



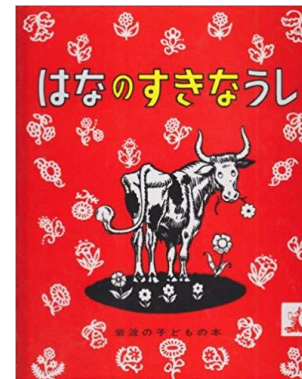
♪子どもと読みたい♪

絵本&物語の本



2018年11月6日発行

作成：なでしこ図書館司書 松岡みどり



本日の読み聞かせの本

『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ/作 ロバート・ローソン/絵
光吉夏弥/訳 岩波書店

まきばの木かげでひとりしずかに花のおいをかいでいるのが好きな牛の
ふえるじなど。けれどもある日とても強い牛とかんちがいされてマドリード
の闘牛場へ連れていかれてしまいます。そこでふえるじなどは…。

あかるい表紙に見覚えのある方もいるかもしれません。物語の中でふえるじ
などを見守るお母さん牛が描かれていて、心温まる絵本です。

時には一緒に♪



図書館では図書の時間に絵本の読み聞かせを行います。全ての絵本が読み聞かせに適しているわけではありません。緻密に描きこまれていたり、見開きのページに場面がいくつもある絵本はなかなか読み聞かせでは難しいです。そんな絵本こそお子さんと一緒に読んでみてはいかがでしょうか。



声を出して読むと 楽しさが倍増します♪

翻訳されている物語の中でも声を出して読むとまた違った面白さに出会える作品が多くあります。

『くまのパディントン』

マイケル・ボンド/作 ベギー・フォートナム/画
松岡享子/訳 福音館書店



イギリス・ロンドンのブラウンさん一家がパディントン駅で出会った小さなクマが巻き起こすハプニングいっぱいだけど最後はみんなにっこり、笑顔になるおはなしです。一人で読んでも楽しめますが、声に出すとさらに物語のユニークさを味わうことができます。



『14ひきのびくにつく』

いわむらかずお 童心社

14ひきのねずみの家族のおはなし。四季折々の自然や生き物が描かれていて、どの作品も飽きることなく楽しむことができます。14ひきもの大家族だけれど、ちゃんとそれぞれのキャラクターがきわだっているので、きっとお気に入り、もしくは「自分に似ている!」ねずみがいるのではないのでしょうか。

『みえるとかみえないとか』

ヨシタケシンスケ/作 伊藤亜紗/そうだん アリス館

「あたりまえ」になっていることもちょっと見方を変えることで発見がたくさんあることに気づける絵本です。

お子さんと一緒にこのおはなしを読んだら、この絵本ができるきっかけになった『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(伊藤亜紗/著 光文社新書)を読むと更に

「見えること=当たり前」という感覚から新しい視点が見えてきます。



『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット/作
わたなべしげお/訳 福音館書店

どうぶつ島にとらわれているりゅうの子どもをたすけに冒険の旅に出る少年・エルマーのお話。楽しみながらワクワクドキドキできるので、前に読んだことがある方もぜひ二度三度と読み返してみてください。